

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	2071700237		
法人名	特別医療法人 恵仁会		
事業所名	シルバーハウス塚原		
所在地	長野県佐久市塚原2228-3 (電話) 0267-65-7380		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年9月12日	評価確定日	平成19年10月4日

【情報提供票より】 (平成19年 9月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費1日500円、共益費1日400円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900 円		

(4) 利用者の概要(平成19年 9月 5日現在)

利用者人数	8 名	男性 1 名	女性 7 名
要介護 1	0	要介護 2	1
要介護 3	5	要介護 4	2
要介護 5	0	要支援 2	0
年齢	平均 86 歳	最低 70 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・くろさわ病院 ・つかばらクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

旧中仙道に面した田園地帯に和風・平屋造りのホームがある。すぐ近くに同じ法人の事業部が運営するクリニックや老人保健施設、小規模デイサービスがある。事業部責任者、看護師、栄養士、ホーム職員によるチームとしての会議も月1回定期的に開催されており、アセスメントを含め意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。入居者主体の暮らしを反映した介護計画や健康管理に留意がされた安心できるホームと言える。法人事業部の第三者委員会と平行して新たに運営推進会議も開催され、ホームへの理解が広がる取り組みがされている。年2回の家族会への出席率も高く、ホームとのコミュニケーションも良くとれている。管理者と職員の意思疎通も良好で、事務作業等の負担軽減・効率アップを図ったり、ホームの職員全員で練り上げた記録簿等も整備されており、職員の定着率の安定に繋がっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善項目について、可能な限り内部・外部の研修に参加できるように取り組まれていた。また、資格取得の機会も作ってきた。定期的な便りについては法人事業部の便りや家族宛の写真付きのハガキを作成したりして日常の様子を知らせている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	②	今回の評価についても、全員で取り組んだことが確認できた。日ごろから管理者と職員のコミュニケーションは図られており課題解決には前向きに取り組んでいる。今回の評価を更に改善に向けて検討し実践へと繋げようとしている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) ホームも属する法人事業部の第三者委員会と平行して新たに運営推進会議を開催している。地元区からの区長、児童民生委員、近隣代表、家族代表等が出席、活動内容報告等をし、要望・意見等を頂いている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会が年2回開催されており、家族が意見を出せる仕組み作りはされている。また、日ごろから言い易い雰囲気作りもされている。家族からの苦情等があった場合、苦情報告書にて報告がされ、全職員に周知徹底、改善へと繋がられている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 同じ法人の運営する隣接の老人保健施設と合同で地域への働きかけを行っており、夏祭りや公開講座等を実施、大勢の地域の方々の参加を頂いている。近所の方からも野菜や果物等を頂いたり、日常的な挨拶は交わしている。頂き物のお返しに、入居者の縫った雑巾などを差し上げたりしている。地区の行事への参加についても徐々に取組みが見られる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、理念の見直しを管理者・職員で行った。ホームの入居者だけでなく、地域のお年寄りにとってもホームがやすらぎの場となることを謳っている。見直し後の理念も玄関、事務所に掲示予定と伺った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	2名の職員のインタビューからも理念の中味をよく理解していることが聞き取れた。ホーム内を見させていただいたり、昼食に同席させていただき、職員の言葉かけや態度にも自信と余裕が感じられ、実践に繋がっていることを感じた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	現状ではほとんど地区の行事への参加はされていない。同じ法人の運営する隣接の老人保健施設と合同で地域への働きかけを行っており、夏祭りや公開講座等を実施、大勢の地域の方々の参加を頂いている。近所の方からも野菜や果物等を頂いたり、日常的な挨拶は交わっている。頂き物のお返しに、入居者の縫った雑巾などを差し上げたりしている。	○	徐々に取り組みが見られるが、運営推進会議を利用するとともに、ホームの役割や中味を地域の皆さんにお知らせし、お互いに支えあうような双方向な関わりを期待します。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価についても、全員で取り組んだことがインタビューで確認された。日ごろから管理者と職員のコミュニケーションは図られており課題解決には前向きに取り組んでいる。今回の評価を更に改善に向けて検討し実践へと繋げようとしている。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が義務化される以前から、ホームも属する法人事業部の第三者委員会が開催されており、地元区からの代表者も参加している。平行して新たに運営推進会議も開催し、区長、児童民生委員、家族代表、近隣代表等が出席、現況報告等をし要望・意見等を頂いている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から派遣される介護相談員のホームへの訪問が一月に一回ある。運営推進会議へ地域包括支援センター等からの参加もあるが協働関係にまでは到っていないようである。	○	残念ながら市町村の担当部署の姿勢による温度差を感じる。地域密着サービスとして新たに定義づけられたサービスであり、市町村の管轄になってから間もないこともあるが、ホームの考え方や実態を知らない担当者が多い。今後は、事業所の実状やケアサービスの取組みについて市担当部署に折に触れて伝えていただきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭管理については、年に3~4回、家族会や来訪時に家族に報告を行っており、サインもいただいている。健康状態については随時担当者から行なわれている。職員の異動等は家族会や、面会時に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会も年2回開催されており、家族が意見を出せる仕組み作りはされている。また、言い易い雰囲気作りもされている。家族からの苦情等があった場合、苦情報告書にて報告がされ、全職員に周知徹底できるようにされている。苦情処理台帳が整備されており、玄関に備え付けられ、いつでも自由に閲覧できるようになっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員もベテランを配置し、馴染みの関係づくりに配慮していることが窺えた。管理者は入居者にも配慮しつつ、離職を抑えるために業務の効率を見直したり、職員の待遇面でも運営努力し、職員満足度のアップを図っている。諸事情で離職等がある時も、新旧の職員の引き継ぎ期間を設けたり、急な場合はいつでも働ける馴染みのアルバイト職員を確保している。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の研修会等が二ヶ月に一回開催されており参加している。外部研修については、事業所からの情報提供がされており、機会をとらえ参加ができる。研修後は「出張報告書」として報告がされており、ホームの運営会議等で発表され全員の共有化も図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の行政圏域内の他グループホーム・12事業所と協働し、学習会、相互評価等に取り組んでいる。今後も、相互評価等を通じ地域のグループホームのサービスの質の向上を目指していこうという熱意を感じた。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	居室に空きがあり可能な場合は、指定を受けているショートステイ(短期利用共同生活介護)を利用し、本人・家族と十分に話し合い入居の調整をしている。その他、午前のお茶の時間から午後のお茶の時間まで、日中数時間をホームで体験利用していただき、数日繰り返し、本人も徐々に馴染みながら、職員も見極めをしながら入居へと移行する場合もある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が夜勤の際に、入居者の生活史的なことをじっくり聴く時間がとれ、各入居者がどういう生き方をしてきたかの理解に繋がっていると伺った。お客様の来訪時のお茶の出し方、その他礼儀・作法等、入居者から教えていただくこともあり、職員からの働きかけによるそうした場面づくりへの配慮も見られた。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で意向をくみ取り、把握に努めている。入居に際しては「日常生活の状況」等、安心して一日が過ごせるように入居者のリズムを把握している。入居者の要望や希望の表出については、会話だけでなく、その時の態度や表情で判断することもある。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回のホームの運営会議には隣接老健の看護師長や栄養士等を交え、話し合いをしている。スタッフ間での話し合いの時間が取れない場合は、申し送り時に簡潔にカンファレンスを行うこともある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化のある時は随時見直しをしている。変化のない場合も、入居者により3ヶ月ないしは6ヶ月での見直しを行っている。計画書の変更は遅れがちであるが、見直しの話し合いを経て、即実施に移している。緊急の場合は申し送り時間で簡潔にカンファレンスを行い、期間の見直しもその場で行うこともある。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	居室に空きある場合は、状況に応じて指定を受けているショートステイ(短期利用共同生活介護)を利用することができる。本人や家族の状況や要望に合わせ、専門医への通院や買物の送迎等に柔軟に対応している。		



シルバーハウス塚原


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常の健康管理については家族との話し合いで主治医を決めており、本人・家族の意向にそった医療が受けられるように支援している。基本的には家族が付き添いで受診するようにしているが、状況により職員が同伴することもある。緊急時の入院先等については入居者本人・家族の希望を確認している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重要事項説明書の「重度化した場合における対応に係るホームの指針」にて説明がされ、家族とも話し合い、カルテにも残されている。職員間でも申し送り時などに口頭で説明がされ、運営会議でも伝えられている。管理者は今回の自己評価で再徹底の必要性を感じ、関係者全体の方針の統一に前向きに取り組もうとしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	慣れによる不適切な言葉がけによる苦情をきっかけに、日々の関わり方を全員で再確認し、入居者の誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。事業所・職員の秘密保持に関しては「運営規程」・「利用契約書」にも明記され、遵守している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重する姿勢が出来ている。入居者の要望や希望については、受診等、優先すべき都合あるときは別だが、買物や散歩等、その時々柔軟に対応している。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ物の好き嫌いについては入居時に聞き取りを行っており、職員にも伝えられ情報の共有ができています。配膳のためのテーブルも入居者に合わせやや低めにするなど配慮がされている。食事の時は職員も同席し、食材や味付けの話しをしながら食事をとっている。また、入居者間で当番が決まっております、準備や片付けを職員と共に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は特に決まっていないが、2日に一回以上は入浴している。夜間入浴にはなかなか浴えなくなってきたが、入居者の要望に応じ、一番風呂やゆっくり入りたい方等には配慮がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	縫い物や台所仕事等、入居者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。また入居者の要望に沿って、ドライブや絵画鑑賞、コンサート、外食等へも出かけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や買い物、ドライブ等、可能な限り入居者の希望に沿えるように努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけることはなく、見守りを重視している。居室の掃き出し窓(テラス窓)には二ヶ所鍵をかけられるが、入居者がいつでもはずすことができ、中庭等へ自由に出入りできる。		

シルバーハウス塚原

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年に2回実施している。また近くにある老健施設も同日に避難訓練を行っており連動している。地域の方には折にふれ、口頭で説明をし協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量等は業務チェック表に記録されている。献立表を毎月法人の管理栄養士に提出し、専門的な観点からも点検してもらっている。入居者の食生活について様々な面から支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南棟、北棟それぞれの中間に、少人数がけのテーブルや椅子のある食堂、ソファの置かれた畳敷きの居間が隣り合わせに配置されており、入居者がくつろげる場所になっている。玄関等には季節を感じさせる花が生けられており、書や絵画等も飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具等の持込については制限されておらず自由に持ち込まれている。各居室は比較的簡素ですっきりとしている。居室壁面や整理ダンスの上には入居者手作りの作品や家族の写真等が飾られており、自分らしい空間作り、安心できる空間作りへの配慮がされ、穏やかな生活が送られていることが窺えた。		

※  は、重点項目。